

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年9月11日

No.22

校長 坂野修一

全国学力・学習状況調査について②

NO.21からの続きです。



本校6年生の顕著な結果と今後の取り組み例は前号のとおりです。

さて、全国学力・学習状況調査には、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する【質問紙調査】というものがあります。その結果と学力調査の結果には、相関関係があるといわれているので、軽視することはできません。本校の子どもたちの様子にもふれながら、山梨県の【質問紙調査】の結果について若干記述したいと思います。

児童生徒質問紙調査(学習に関する項目)から見える山梨の子どもたち

- 学習に関する項目の95%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- 「今まで受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだりしている」「話し合いを通じて考えを深めたり広げたりすることができる」と回答している割合が全国平均を上回り、小学校段階から学習に対して主体的に取り組む姿勢が身に付いている。
- 「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「学校のきまりを守る」など自己肯定感や規範意識が高い児童生徒が多く、学校や家庭で培われた前向きで落ち着いた生活習慣が、学習に臨む姿勢の育成につながっているものと思われる。
- 「算数(数学)や理科の勉強は大切だと思う」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答している割合が全国平均を上回り、学習に対する前向きな姿勢がわかる。
- △「調査問題の解答時間が十分だったと思う」と回答している割合が全国平均を下回り、時間内に問題を解くことに課題が見られる。
- △「学校の授業時間以外に普段一日あたりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に対して「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は全国平均を下回っている。

上記の内容は、おおよそ本校の子どもたちにも合致しているところです。(理科のテストは、少し時間に余裕があったと答えています…(^^)) また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に、本校児童は全員が「あてはまる」と答えています。そのことは、何より良かったなあと思います。

本校は、極小規模校です。一人ひとりの個別指導の時間は、大規模校より取りやすい環境にあります。そのメリットを生かすとともに、わかる授業楽しい授業の構築していかなければなりません。引き続き、「教師の授業力の向上」、「家庭との連携」を図り、学校で学んだことが家庭での学習にうまくつながるように努めていきたいと思えます。学校と家庭、地域とのトライアングルの中で、子どもたちはより良く成長していきます。学校の取り組みについて、ご理解とご協力をよろしく願います。

明星大学の学生が来ました！

先週3日(月)から～7日(金)まで、明星大学の学生6名が、小規模校の教育活動を研究するために来ました。子どもたちは若い学生さんと過ごすことができ、とてもうれしそうでした。(休み時間や放課後は、毎日、子どもたちと一緒に遊んでくれました。)最終日の放課後にはお別れ会が行われ、学生さんたちの心のこもった子どもたち一人ひとりへのプレゼントに感動…学生のみなさんには、今回の経験を今後には是非活かしてほしいと思えます。